



北海道情報大学 同窓会会報

第2号

発行
北海道情報大学 同窓会

十五歳を迎えた本学の近況

北海道情報大学
経営情報学部長 林 雄二



卒業生諸兄姉には、卒業以来それぞれの立場で活躍をされていることでしょう。北海道情報大学は平成元年の開学以来、十五年余になりました。かつて十五歳は元服として、成人の扱いがなされる年齢とされてきました。本学もまさに、真価を問われる時を迎えているといえましょう。

一期生卒業時に還暦を超えておられた教員は、現在までにほとんど定年に達せられ（あるいは逝去され）、開学時から継続して現在も在籍している教員は、十五名余りになっています。私（林）も残留組の一人です。情報学科生全員と四期生までの経営学科生は、私の担当科

目「プログラム設計論」を履修しているはずです。フローチャートやPADなどを通してアルゴリズム表現を学んだ記憶が残っていますか。単位を落として二年間三年間を継続して履修した諸兄姉も少なくありません。その状況が現在でもあまり変わりがないのは、どう意味付けすべきなのでしょう。

この機会に、現在に至る十五年間の沿革と、最近のトピックスである教養教育の改革について述べることにします。

まず、開学以来の本学の発展を生んできた特筆事項とその年度を掲げておきましょう。皆さんの在籍前あるいは在籍後の出来事を通して改めて大学に思いを馳せてもらえれば幸いです。

- ☆テニスコートの建設（一九九三）
- ☆食堂増築（一九九三）
- ☆クラブ会合室建設（一九九三）
- ☆通信教育棟新設（一九九三）
- ☆通信教育部の開設（一九九四）
- ☆学生駐車場建設（一九九五）
- ☆大学院研究科の開設（一九九六）
- ☆松尾記念館の建設（図書室の移転、実習室の移転）（一九九八）
- ☆野球場・サッカー場（多目的グラウンド）建設（一九九九）
- ☆情報メディア学部開設（二〇〇一）

☆南京大学との提携（二〇〇一）
☆教職課程（高等学校教諭一種免許状「情報」開始（二〇〇一））

☆スペース・コラボレーション・システム（SCS）に加盟（二〇〇二）

☆カルフォルニア州立大学サンタクルズ校（UCSC）との提携（二〇〇二）

☆新講義棟の増築（二〇〇三）
☆学内分煙化（二〇〇三）

☆体育館横テラス建設（二〇〇三）
☆部室棟の建設（二〇〇三）

☆経営情報学部の学科名変更（二〇〇三）

☆瀋陽師範大学との提携（二〇〇三）

今更ながら、短い期間に本学が如何に発展を遂げてきたかを見ることができ

ます。

次に、最近の出来事として、教養教育の改革について触れておきます。平成十五年度には、経営情報学部の学科名変更が行われ、同時にカリキュラム改正

がなされました。このカリキュラム改正では、教養教育において、新入生に対する「ビギナーズセミナー」と数学の習

熟度別講義を開始したことが画期的なことといえます。他にも専門教育などで

多くの改革がなされましたが、未だ展開

されていない内容を含むので、今回は上に述べた二点についてだけ触れておきましょう。「ビギナーズセミナー」は、少人数の下で、読解力・考察力・コミュニケーション力など基礎的な能力を磨くことを目標に開設されました。「ビギナーズセミナー」の開設によって、経営情報学部では、一年次から二・三・四年次まで、各学年での必修ゼミが展開されることになりました。さらに、数学の第一歩を、学生の学力に応じたクラス毎に展開する習熟度別講義「基礎数学」を開始しました。数学的思考力が、多くの情報系科目の基礎になることは疑いありません。この習熟度別講義は本学における教育面での最大の進歩といえましょう。今後は、さらなる科目で習熟度別あるいは同様の方式によって、個々の学生に応じた教育が展開されていくことが望まれます。ある新入生が、ビギナーズセミナーや基礎数学を少人数単位で学ぶことができ、一人一人が大学に受け入れられているという印象を受けたと話してくれました。

ここに述べたように、本学は様々な改革と拡張を経て現在に至っていますが、教育の内容、方法、しくみの絶え間ない改革は常に課題として残されています。卒業生諸兄姉には、今後とも情報大学に関心を寄せてもらうことができれば幸いに思います。母校を訪れて下さい。教職員一同、諸兄姉の近況はもとより、本学への提言を訊かせてもらえることを楽しみにしています。